

(様式7)

学位論文審査結果の要旨

氏名	徳久 雅人
審査委員	委員長 池原 悟 印 委員 遠藤 勉 印 委員 菅原 一孔 印 委員 増山 博 印 委員 村上 仁一 印
論文題目	パターン言語処理に基づく情緒推定に関する研究
審査結果の要旨	<p>本論文は、言語表現から話者や登場人物の情緒を推定するための新しい方式を提案し、その実現に必要な言語知識ベースを構築することによって、人間なみの情緒推定能力が実現できることを示したものである。</p> <p>この方式は、人間の概念形成過程に着目して情緒発生のメカニズムをモデル化しており、話者と登場人物の情緒は、(a)「非線形言語モデル」に基づく表現パターンによって文の意味(概念)をすくい取ること、(b)すくい取った文の意味を情緒モデルに適用すること、によって推定される。</p> <p>この研究は、以下の点に特徴がある。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 言語表現に対して通常の読者に共通する情緒推定能力(52%~65%)を実験的に評価し、これを計算機処理の実現目標とした。また、「情緒主」、「情緒生起と反応過程」、「言語表現形式」の関係に着目した検討によって、情緒推定の機械化では、情緒生起原因の分析のための言語知識ベースが必要不可欠であることを明らかにした。(2) 情緒の生起要因の分析により、8種類の基本的な情緒(「喜び」、「怒り」など)に対して、120種類の原因が対応づけられることを明らかにし、言語表現の意味(概念)から情緒を推定するためのアルゴリズムを提案した。また、この方法を実現するための言語知識ベースを設計した。(3) 非線形な言語表現に対するパターン記述言語を設計し、上記の知識ベース(1.4万パターン)を実現するとともに、パターン照合のための高速アルゴリズムを開発した。また、評価実験により、人間の初心者の推定能力(49%)に近い推定能力(45%)が得られることを示した。 <p>本論文は、計算機による言語意味理解のための基礎技術の一つとして、実用レベルの情緒推定技術の突破口を開いたものである。この成果は、Web上の記事やブログなどに現れた話者の感情や意志の自動分析など多くの応用が期待される。</p> <p>以上から、本論文は、博士(工学)の学位を授与に値すると判定する。</p>